

## 過敏性腸症候群の症状を管理するためのオステオパシー手技療法の有効性について

Axel Muller, DO (Germany), MSc; Helge Franke, DO (Germany), MSc; Karl-Ludwig Resch, MD, PhD; Gary Fryer, PhD, BSc

### 抄録

背景：過敏性腸症候群（IBS）は頻度が高く、またしばしば終生続く機能性の胃腸障害である。一方、IBSに対する効果的な管理の選択肢は少ない。

目的：IBSの症状を管理するためのオステオパシー手技療法（OMTh）の有効性を評価すること。

データ元：言語や出版日の制限なしに、PubMed、Embase、Cochrane Library、PEDro、OSTMED、DR、Osteopathic Research Webより論文の検索を行った。

検索語には、過敏性腸症候群、IBS、機能性大腸疾患、過敏性大腸、オステオパス、オステオパシー手技、オステオパシー医療、臨床試験、無作為化臨床試験が含まれた。

内臓オステオパシー領域の専門家にも、追加の研究について確認するために連絡した。

研究の選択：ローマ基準（I-III）によりIBSと診断された成人に対するOMThのランダム化比較試験（RCT）が評価された。OMThが介入群における単独の介入ではなかった場合や、同様の付加的な介入が対照群にも適用されていない場合、その研究は除外された。

データ抽出：引用の特定・研究の選択・データの抽出は、コクラン共同計画からのデータ抽出フォームを使用して、2人のレビューアーが独自に実施した。レビューされたランダム化比較試験の方法論的な質の評価に関して、意見の相違を解決するためにコンセンサス方式が使用された。

結果：検索によって、IBS患者に対するOMThについて調べた研究が10件特定され、そのうち5件（204人の患者）が選定基準を満たした。すべての研究が、コクラン共同計画の基準に従って、バイアスのリスクは低いと評価されたが、効果測定と対照への介入に不均質が存在した。3つの研究では、腹痛に対して視覚的アナログスケールが使用され、一方、他の研究では、IBS重症度スコアと機能的腸障害の重症度指数（FBDSI）が使用された。

様々な二次的なアウトカムも使用された。すべての研究において、偽治療または標準的な治療のみと比較して、OMThの介入はより顕著な短期的改善が報告された。これらの違いは、3件の研究における様々な追跡期間の後も、統計的に有意なままであった。

結論：当面の系統的レビューは、OMThがIBS患者の治療に有益である可能性の予備的証拠を提供している。しかしながら、利用可能な研究の数が限られており、サンプルのサイズが小さいため、調査結果の解釈には注意が必要である。

#### 原論文

Effectiveness of Osteopathic Manipulative Therapy for Managing Symptoms of Irritable Bowel Syndrome:A Systematic Review

AxelMuller, DO(Germany), MSc;HelgeFranke, DO(Germany), MSc;Karl-Ludwig

Resch, MD, PhD;Gary Fryer, PhD, BSc

The Journal of the American Osteopathic Association, June 2014, Vol. 114, 470-479.

翻訳者 松村暁 MRO(J)

